

令和5年5月20日

## 令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人村田学園  
小金井けやきの森認定こども園

### 1, 教育目標

～子どもの「未来」を想像し「いま」に向き合い、子ども一人ひとりが持つ”キラリ“を引き出す～

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての満三歳以上の子供に対する教育ならびに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的とする

### 2, 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもが主体的に取り組める環境を設定し、保育者も主体性をもって保育に従事する
- ・保育者間での情報共有を密にし、業務の効率化を図る
- ・園内での生活において、子ども一人ひとりの成長を大切にする

### 3, 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実	B	保育室の環境をより過ごしやすい場所にするために、職員全体で集まったり話し合う機会をつくり、徐々にではあるが、改善をしている コーナー遊びを充実させ、それぞれの子どものやりたいことが遊びのなかで充実するよう心がけるようになった
2	保育の可視化	B	保護者参加のない園行事や日常保育の様子の動画配信を始めた 給食時の様子、子ども同士の関わり、保護者が不在の時の我が子の様子を見て頂くことが出来、保護者にも大変楽しみにしてもらっており、敬老会や芋煮会、月の観測会など、今までになかった催しも取り入れ、送迎以外で保護者が園に来てい

			ただく機会も増えた
3	教職員の質の向上及び研修の充実	C	オンライン研修が増えているので、出向いて研修を受けるよりは機会を増やすことが出来ている 他園の公開保育等にも参加することが出来、それぞれの保育者が知り得た情報、内容を職員会議等で発表することにより、知識の共有が図られるようになった
4	組織運営について	C	業務の効率化が、依然として課題事項として残る 担当クラスによって業務内容の負担にバラツキがあるため積極的に声がけをすることにする 打ち合わせ（担任間、行事担当間など）の機会をもっと作れるとよい 行事を増やしたことによって保育者の業務が増えてしまい、簡素化または業務の分散化が必至である
5	安全管理	C	ヒヤリハット報告書や事故報告書も（報告がないに越したことはないが）責任をもって記入するようになった 反省を踏まえ、事後の対応に役立てるためにも非常に重要

#### 4、総合的な評価結果

令和4年度から、本格的に保育・教育内容を見直し始めている。今までのような大人主導の保育ではなく、子どもの意思を反映させるためにどのようにしたら良いのかを念頭に置き、保育にあたっているが、職員によっては、やはり意識の差が出ている  
今、必要とされる保育の「意味」の共有と、知識のアップデートが必要と思われる  
全体的には、変革の時期が訪れていることを全員が意識できているので、今後の研修等により、その意識をさらに大きくもち、職員個々の保育のレベルアップ、全体としての質の向上につなげていけると考える

#### 5、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	地域との連携	地域に必要とされる園でありたいと願う まち探検や、町会行事への参加、未就園児の行事の拡充などを通じて、地域社会とのコミュニケーションをさらに図っていきたい 小学校との接続においても交流の機会を増やす

2	教職員の業務負担軽減	<p>日頃の保育に加え、研修参加、行事の準備等で、増える保育者の業務負担を最小限にし、職員間の連携をとって、負担感が偏らないようにする</p> <p>そもそも、一つひとつが、これからの園にとって必要なのか、要・不要の選択も積極的に行っていく</p>
3	保育の質の向上	<p>子どもたちが、生涯にわたり、幸せで、自分自身を大切に出来、その子なりに自信をもって生きていける、そんな一人のひとを育てるために、保育者としてどう関わっていくべきなのか、保育者のレベルをアップさせ、子ども個々への理解を深めていかなければならない</p>

#### 6、学校関係者評価委員の評価

様々な意見があるなか、保護者に対して園の見える化を図っていこう、積極的に発信しようとする努力が見えている

些細なことで気付くこともあるが、概ね、日頃の保育や未就園児の行事、園での行事についても、満足しているとみられる

今後は、園での最大のテーマとしている、「令和の保育・幼児教育」への取組を一層加速させ、より、子ども一人ひとりにクローズアップした保育内容になることを期待する